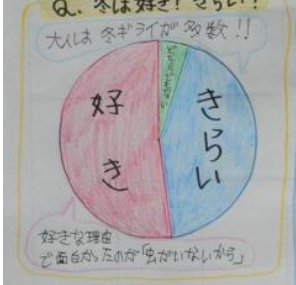
冬のくらし調査　4年1組 樋坂晟

ぼくたちのくらす札幌市は、1年間に約6メートルの雪がふるまちです。人口が100万人以上でこんなに雪がふる都市は、世界でも札幌市だけです。
冬、いろいろなこまること、心配なこと、楽しいことなどがあります。そこで、授業で学習した、じょ雪や、クラスのみんなと保護者の方のアンケート、近所に住む方へのインタビューなどで冬のくらしの問題点や解決法、楽しみかたなどを調べてみました。

みんなに聞きました！冬のあれこれ

Q. 冬は好き？きらい？



Q. 冬の楽しみは何ですか？

1位 スキー（ダントツ） 20人
北海道のパウダースノーは最高！

2位 雪まつり 9人

今年の来場者数は、240万2000人でした。

3位 クリスマス お正月 8人

4位 なし 7人 (T_T)

その他 9人 (スケート・雪遊びなど)

Nice!! 雪を食べること 珍解答

Q. 冬に食べたいものは？

ダントツ
1位 なべ料理 38人 種類はいろいろ

2位 おでん 3人
なべやきうどん3人

4位 おぞうに 2人

ラーメン・具だくさん汁・おもち
チーズフォンデュ・おすし
冬肉・あんまん・ぎょうざ 1人

？冬にあたたかいものを食べると、何かいいことがありますか？

山の手南小学校 栄養教諭 長島先生

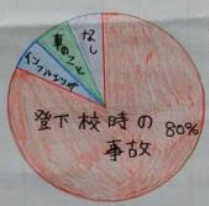
身体があたたまって病気に強くなります。

？冬におすすめの食べものは何ですか？

冬の旬の食べものを食べましょう。(根を食べる野菜)

Q. 冬、一番こまることは？

Q. 冬にお母さんが心配な事



みんな、事故にあわないよう気をつけよう!!

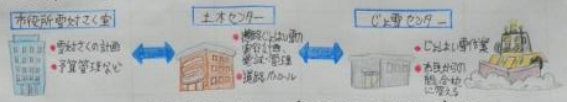
ほとんどのお母さんが事故を一番心配しています

まとめ

この調査で札幌の冬のくらしは、やはり大変なことがたくさんあると思いました。それに、札幌市や学校、家庭や地いきの方など、いろいろな人に守られて、ぼくたちは安全に冬をくらしているということもわかりました。そして、自分でも、事故に気をつけたり、じょ雪の手伝いをしようと思いました。また、アンケートやインタビューにみんなが協力してくれたことがとてもうれしかったです。

世界にほこるじょはい雪システム

札幌市のじょはい雪は、市役所の雪対さく室、10区役所の土木センター、市内に23あるじょ雪センターが協力して行っています。



雪が10cm以上ふると、じょ雪が行われます。市内各地に雪がふった時には、約1000台のじょ雪車がいっせいに作業をします。作業は、主に夜間に行われ通勤・通学の時間には終わります。ひとばんに1台の機械で10キロメートルのじょ雪をします。市内の車道をいっせいにじょ雪すると、きょりは5400キロメートル札幌―石垣島間を往復するきょりと同じです。それに、歩道を3000キロメートルじょ雪します。この費用は、1日に約1億2000万円、そのほかの費用をふくめて、ひと冬で、なんと150億円もかかります。このきょり・費用は世界一です。

じょ雪する道路やかた法はいろいろあり、場所によって、ちがう機械を使います。住宅街の生活道路などは、かきわけじょ雪という雪を寄せるじょ雪をします。このため雪が厚くなってしまいますがこれはみなさんの協力が必要なものです。かぎられた時間と機械で市民の生活を守るためのじょ雪作業です。ぼくたちも協力してスムーズにじょ雪ができるよう考えなければいけないと思います。
じょ雪で道路もきに積まれた雪を雪たい積場へ運ぶ作業をはい雪といい、これは、機械が4台、トラック15台と25人以上の人が一組になり行います。作業がとてもたいへんなので1組が1日に約2キロメートルしかできずじょ雪にくらべて、約30倍もの費用がかかってしまうため、すべての車道や歩道ではできません。雪たい積場は、市内や近くの市に約70か所ありますが、現ぞんする雪の量は、多い年でひと冬に札幌ドームの約16はい分もあります。市のはい雪はかん線道路を中心にくぎうため、住宅街の道路は、

① じょ雪パートナーシップ制度
・地いきと市が費用を負担しじょ雪事業者と三者が協力して住宅街の道路のはい雪を行う制度。

② 市民助成トラック制度
・雪を運ぶトラックを無償で貸し出す制度。

※利用できるのはどちらか1つの制度。

を利用してはい雪をします。ぼくの住む地いきでも、じょ雪パートナーシップ制度でひと冬に一度はい雪しています。費用は町内会費から支出しています。
冬も快適な市民生活が送れるように、たいへんな費用と努力で行われるじょはい雪ですが、よりよくするために、守りたいマナーがあります。
それは、めいわくな駐車をしない 道路への雪すてをしない ということです。ぼくも学習して、じょはい雪がこんなにたいへんなものだと初めて知り、じ雪作業にかかわる人たちに感謝の気持ちがわきました。じょ雪センターの人たちは、24時間交代で働き、夜中に7時間も作業をしています。ぼくたちもマナーを守り、協力する気持ちを持つことが、じょはい雪作業の助けになると思います。

地いきと学校と協力して
～子ども・地いきの皆様が安心して歩ける冬道～

山の手南小学校 金山真由美 校長先生

本校の通学路である中央通りの歩道は、1.5mです。歩道のじょには、2m幅が必要ですがそれよりせまいため、じょ雪対象となりません。歩道じょ雪ができない道路は、車道のわきを広げて、車道内に歩行者の幅を確保しているそうです。このような冬道を子どもたちは歩いているのですが、少しでも安全に歩けるようにと平成14年度から地いきの皆様、西区土木維持管理課、札幌市雪対さく室の協力により通学路(中央通り)のじょはい雪の雪置き場として本校のグラウンドを活用しています。毎年、三学期が始まる直前に通学路のじょはい雪をしますが、この作業は、夕方から夜中の12時まで行われますから、校区内の方々、特に学校近隣の方々にはグラウンドにじょはい雪した雪を搬入するため、騒音などでご迷惑をおかけしています。おかげさまで皆様の協力のおかげで作業が順調に行われており、ご理解ご協力に感謝しています。その後を地いきの皆様は、ご自宅近くの歩道のじょ雪、砂まき、危険な個所を西区土木センターに電話して知らせる、また、子どもたちの交通指導と見守りなど多くのご協力をいただいています。学校では、常に通学路の状況をはあくし安全に配りょして歩くよう子どもたちへの声かけ、じょ雪・砂まきなど、PTA や関係機関と連けいしながら冬道の安全に努めています。保護者や地いきの皆様と協力し"できるときにできることを"を実践していければと思っております。